

Q11 <流れ図⑦⑧>項目と項目の関連付けや具体的な指導内容の設定はどのように行いますか。



特別支援学級担任

自立活動の大まかな概要は分かりますが、項目の関連付けをして指導内容を決定することが、難しいです。

項目と項目を関連付ける意味や仕方がよく分かりません。



通級指導教室担当



特別支援学級担任

どの程度、具体的にした指導内容を設定すればよいですか。

A 選定した項目(流れ図⑥)同士を関連付けながら、合わせてその根拠(流れ図⑦)項目と項目を関連付ける際のポイント)を示し、具体的な指導内容を設定します。

選定した項目同士を関連付ける場合、「**流れ図⑤の指導目標を達成するためには、こんな力を育てる必要がある。したがって、区分〇〇〇の項目〇〇と区分□□□の項目□□とを関連付けて指導する。**」等、流れ図④で行った課題同士の関連や整理を振り返りながら検討します。

改めて、関連付けることで、他の多くの課題と関連している課題の存在や、複数の課題の原因となっている課題の存在等に注目しやすくなったり、発展的な課題の見通し等をもちやすくなったりします。

以下に例を示しますが、これは、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編P156~159に示されている、読み書き障がいの生徒の例です。

⑥ 指導目標を達成するために必要な項目の選定する段階

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(4)	(3)		(2)(3)		(2)(4)(5)

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント **⑧を設定した根拠(理由)がポイントです。**

- ・困難を乗り越えるために使用するICT機器等や方法に関わる内容として(環)(2)(3)とコ(2)(4)(5)を関連付けて設定した具体的な指導内容が、⑧アである。
- ・失っている自信を取り戻すために、(健)(4)と(心)(3)を関連付けて設定した具体的な指導内容が、⑧イである。
- ・高校生段階としての自己理解ができるようになることを目指して、(心)(3)とコ(2)(5)を関連付けて設定した具体的な指導内容が、⑧ウである。

⑧具体的な指導内容を設定する段階

ア コンピュータ等の情報機器等を使用して読み書きの困難を乗り越える方法に習熟し、必要に応じて、その成果や意図を他者に説明できる。	イ 適切な方法により、読み書きはできるようになることを理解し、今はできないことでも挑戦しようという気持ちをもつ。	ウ 読解に際して行われる情報処理過程の概略を理解し、自分の困難は方法を工夫することで乗り越えられることに気付く。
--	--	--

具体的な指導内容は、短期的な目標あるいは、題材(単元)目標を設定する際の指導内容レベルまで、具体的にすると、実際の指導に生かされます。
流れ図の様式は、自立活動Q&Aハンドブックのホームページからダウンロードできます。

